

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
大学院生研究
2006年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 現代心理学 研究科 心理学 専攻		
指導教員	所属・職名		氏 名
	現代心理学部・教授		押見 輝男 印
自然・人文の別	自然 ・ 人文	個人・共同の別	個人 ・ 共同 名
研究課題名	対面場面における被開示者の聞き上手さ； 状況因としてのパースペクティブ・テイキング		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏 名
	現代心理学研究科・ 心理学専攻・後期課程 3 年		宮崎 貴子 印
研究組織	在籍研究科・専攻・学年		氏 名
	現代心理学研究科・心理学専攻・ 後期課程 3 年		宮崎 貴子
研究期間	2006 年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要 (200～300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究では、特性自己コントロールとオープナーとの関連性についての分析から、自己開示における被開示者の聞き上手さのプロセスに関し検討を行った。結果、特性自己コントロールの下位因子である衝動抑制、努力の持続とオープナーとの間に有意な正の関係性が、自律的生活態度との間に負の関係性が見られた。したがって、自己開示場面において、被開示者が、開示者の開示を聞いている間、自身の思考や感情をコントロールすること、聞くという目標を常に意識することで、聞き上手さが実現し、自己開示が促進されると考えられる。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[自己開示] [聞き上手さ] [自己コントロール]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

自分自身のことを他者に語ることを、社会心理学では自己開示 (self-disclosure) という。自己開示は社会的場面で起こる開示者、被開示者の相互作用であり、被開示者は単に開示者の自己開示を聞くだけでなく、自己開示の量や内面性を増大させ、開示者が快く自己開示できるように促進する機能を持っていると考えられる。自己開示を促進する被開示者の側面に関する従来の研究では、開示を受けやすく、引き出しやすい特性であるオープナー (opener) が重要視され、どのようにして開示者の自己開示を促進するのかという、被開示者の聞き上手さのプロセス、および、聞き上手さの規定因に関する検討が不十分であると言える。

そこで、宮崎 (2003) は聞き上手さに関係する変数であると考えられるパースペクティブ・テイキング (perspective taking)、共感的配慮 (empathic concern) との関連性について検討した。パースペクティブ・テイキング尺度は、自他の視点を等しく考慮する視点共存、および他者の視点を取り込んで理解しようとする視点移入の 2 因子構造であることが示されている。オープナーの共感が視点共存、視点移入のどちらの姿勢からもたらされているのかについて明らかにすることで、聞き上手さのプロセスを推測した。結果、オープナーと共感的配慮、視点移入との間に正の関係性が認められた。したがって、他者に対して、その他者が話をしやすいようになごませたり、共感を示したりしながら話を聞く人物は、他者に同情したり、他者に対して気掛かりの持ったりと、他者の内的な感情状況に対し配慮していることが示唆された。さらに、自己の視点に立つことを抑制し、積極的に他者の視点を取り込み、その他者の立場から話の内容を理解しようとしていることが示唆された。この、自己の視点を抑制し他者の視点に立つということは、自分の思考、感情、習慣的行動パターンを抑える能力である自己コントロール (self-control) と正の関係性が見られることが予測される。自己コントロールは、自己に関連した研究として、近年注目されており、個人が周囲の状況や自己の目標に合わせてどのように自らの感情や行動を変えていくのかを考える上で、鍵となる概念である。以上のことから、本研究では自己コントロールとオープナーとの関連性について検討を行うこととした。

自己コントロールは、パーソナリティ特性としての自己コントロール能力である特性自己コントロール (trait self-control) と、状況的、一時的な自己コントロールの状態である状態自己コントロール (state self-control) に呼び分けられている。また特性自己コントロールの個人差を測定する自己コントロール尺度 (Self-Control Scale) がつくられ (Tangney, Baumeister, & Boone, 2004) ている。Tangney et al. (2004) の自己コントロール尺度の邦訳版を作成したところ、衝動抑制、時間管理、自律的生活態度、努力の持続の 4 因子構造であることが示された (宮崎・中江・古賀・押見, 2007)。衝動抑制因子に含まれる項目は、「どんなことでも思いついたことをうっかり口に出してしまう (逆転項目)」「衝動的だと思われる (逆転項目)」など 8 項目で、自己の衝動性のコントロールに関する項目である。時間管理因子に含まれる項目は、「いつも時間を守る」「予定をきちんと守る人だと周りから思われている」など 4 項目で、日常の時間に関係した一般的なコントロールに関するものである。自律的生活態度因子に含まれる項目は、「もっと自制心があればよいのと思う (逆転項目)」「自分に甘いことがある (逆転項目)」など 7 項目で、日常的に節度のある生活を送るようコントロールする項目である。努力の持続因子は、「健康のために運動をしている」「体によいものを食べるようにしている」「頼りがいのある人間だ」など 4 項目で、持続的に努力して行動をコントロールする項目である。

この邦訳版を用い、特性自己コントロールとパースペクティブ・テイキングとの関連について、質問紙調査で得られたデータをもとに分析を行った結果、視点共存と $r=.30$ ($p<.01$)、視点移入と $r=.11$ ($p<.05$) の正の相関が見られた。また、特性自己コントロ

研究成果の概要 つづき

ールとオープナーとの間には、 $r=.30$ ($p<.01$) の正の相関が見られた。

そこで、オープナーを基準変数、特性自己コントロールの各下位因子を説明変数として、強制投入による重回帰分析を行った。結果、オープナーの回帰は有意であり ($R=.49$ / $F(4,360)=28.16$, $p<.001$)、各説明変数の効果については、衝動抑制、努力の持続とオープナーとの間に有意な正の関係性が見られた。また、自律的生活態度との間に負の関係性が見られた。

衝動抑制、努力の持続とオープナーとの関係性から、開示者の自己開示を聞く際に、自身の思考や感情を抑えることで失言がなく、開示者を不快にさせないこと、聞くことに対する目標意識を継続させることが、聞き上手であるために重要であることが示唆された。また、自律的生活態度とオープナーとの関係性からは、被開示者の過度の自制が、自己開示を抑制する可能性が示唆された。したがって、自己開示場面において、被開示者が、開示者の開示を聞いている間、自身の思考や感情をコントロールすること、聞くという目標を常に意識することで、聞き上手さが実現し、自己開示が促進されると考えられる。一方で、日常の会話場面において、被開示者がどのような動機から開示者が快く開示するように自己コントロールを行うのかという問題が残る。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

宮崎貴子・中江須美子・古賀ひろみ・押見輝男 (2007). 特性自己コントロール及び状態自己消耗の測定 立教大学心理学研究, 49, 33-45.

② 図書

宮崎貴子 (2006). 自己開示と健康 山岡重行 (編) サイコ・ナビ心理学案内 ブレーン出版, pp292-299.

③ シンポジウム・公開講演会の開催

なし

④ その他

学会発表

宮崎貴子 思わず話してしまったけれど —自己コントロールを超えた自己開示— 日本社会心理学会第47回大会発表論文集, 648-649. (東北大学, 2006.9.17-18)

宮崎貴子 音楽の親和感情価が自己開示に及ぼす効果 日本心理学会第69回大会発表論文集, 199. (福岡国際会議場, 2006.11.3-5)

宮崎貴子・家島明彦・並川 努・谷 伊織・榎本博明・下斗米 淳 「語ること」と「聴くこと」 日本心理学会第70回大会ワークショップ (WS005) (企画・話題提供). (福岡国際会議場, 2006.11.3-5)

小林 亮・榎本博明・宮崎貴子・堀 正・塘 利枝子・鈴木一代・柏木恵子 自己心理学における文化の問題 (4) 日本心理学会第70回大会ワークショップ (WS031) (司会). (福岡国際会議場, 2006.11.3-5)

以上